スーパー グローバル ハイスクール

中部大学春日丘高校 SGH通信 VOL 37

発行日
平成 28 年 6 月 23 日

SGH課題研究「グローバル課題4領域について知り、気づき、探る学習」(14 時限／10 回)

－グローバル課題4領域の概要を知り、その現状や課題に気づき、解決策のヒントを見つける－

「国際開発」編 -JICA の講演から学ぶ-

開催概要

- 日 時: 1. 事前学習　平成 28 年 5 月 31 日 (火) 7 時限 [15:20～16:10]
  2. 専門家の講義　平成 28 年 6 月 4 日 (土) 3.4 時限 [10:50～12:40]
  3. 事後学習　平成 28 年 6 月 7 日(火) 7 時限[15:20～16:10]
- 場 所:中部大学春日丘高等学校各教室、中部大学 55 号館
- 参加者:啓明コース及び国際コース1年生 145 人
- ファシリテーター:担任群
- 講演者:JICA 中部　竹内康人氏
- 学習のねらい:

1. 事前学習

① 国際開発の概要、関連用語を理解する。
② 視聴覚教材を用い、この領域に関する理解を深め、専門家に聞きたいことをまとめる。

2. 専門家の講義

① 専門家による講義の内容からこの領域の現状や課題について理解する。
② 「わかったこと」、「もっと知りたくなったこと」という観点から講義を振り返る。

3. 事後学習

① 講義を振り返り、今後、この領域の調査研究への意欲につなげる。
② 国際開発のグローバル課題の解決方法(手法や事例)について、参加型の手法を通して体験的に探る。

学習の流れと成果

1. 事前学習

①今回の学習のねらいを説明した。
②国際開発の概要および用語を理解した。次の用語(BHN、人間開発指数、ODA、援助のはしご、人間の安全保障)をF(ファシリテーター)が板書し、その用語について「よく知っていて説明できる」「聞いたことがある」「聞いたこともない」のどれに当てはまるか、挙手アンケートを行った。その後、詳しい資料を読み、内容を把握した。
③聴覚教材(NHK データマップ「世界の貧しさのためにできること」)を通し、グローバル課題について理解を深めた。
④4～5 人のグループに分かれ、次回講師に聞きたいことをグループで3つ話し合い、全員で共有した。

(生徒から出た質問の一例)

- 日本の ODA は具体的に何をしているのか。
- 貧困は本当に悪いことなのか。
- お金がないのに子供が多いのはなぜか。
- 豊かな心を持つにはどうしたらいいのか。

■ 2. 専門家の講義

①講師の紹介をした。

②講師が講義（情報提供）を行い、生徒は、講義メモを取りながら、話を聞いた。

《講義の内容》

・世界の人口のうち、約8割が開発途上国で暮らしている。

・JICA の仕事

ODA（政府開発援助）を通し、多国間協力（国際機関を通じて開発途上国を協力する）と二国間協力（日本から開発途上国に直接協力する）を行う。その二国間協力には、有償資金協力、無償賃金協力、技術協力、国際緊急援助が含まれており、市民参加の協力やボランティア派遣まで行っている。

・派遣先のイラクでの話

－客をもてなす時にはフルーツとしてきゅうりがでてくる

－アメリカの商品も入ってきている（例：ペプシコーラ）

③机の前後5,6人でグループを作り、グループワークの「進行役1人」「発表役1人」を決め、各班の発表役が「わかったこと」「もっと知りたくなったこと」を前のグループとの重複を避けて発表し、講師に可能な範囲で答えてもらった。

講義の様子

講義の様子

■ 3. 事後学習

①個人で資料「バングラデシュに関するデータ資料」を読み、バングラデシュについての概要や特徴を理解した。その後、資料「バングラデシュを救う9つの方法」を使い、バングラデシュの貧困問題を解決するために、提案されている9つの解決方法を効果があると思う順番にダイヤモンドランキングした。

Q. .以下の項目に優先順位をつけなさい。

A）バングラデシュの産物（ジュートや米）を日本に輸入する

B）バングラデシュの工業基盤を整備するために道路や港湾施設を作るプロジェクトに日本の ODA を供与する

C）日本の国内においてバングラデシュの実状を正確に伝えるような広報、教育活動を行う

D）毎年起きる洪水の時期にバングラデシュに日本の食料を送る　　など

②グループを作り、自分のランキングをグループ内で共有し、グループでの意見をまとめ、全体でどの方法が重要視されたか確認した。

③振り返りシートを記入した。

《振り返りシートより》

・見方によってはいろいろな可能性を見いだすことができるとわかった。正解は1つではない。

・「貧しい＝不幸」ではないことを知り、考えさせられた。

・何でも支援すればいいということではなく、必要な物やことを、その国の状態や段階ごとに長期的に考えて見極めることが大切だと思った。